

「図書館」が無くなる！？

情報教育研究センター 助教授 井上 明

唐突なタイトルをつけたが、結論から書くと、「無くなることはない」である。なぜこのようなことを書いたのかを説明していきたい。

最近、インターネットの広がりによって、様々なサービスが生まれてきていることは周知のとおりである。その中でも、特に話題になっているニュースが、「本の電子化」である。

それでは、最近の話題をいくつか紹介しよう。これまで、図書館の蔵書検索や一部書籍の本文閲覧などがサービスされてきた。さらに最近では、「本文まるごと閲覧サービス」が本格的に提供されはじめようとしている。検索サイト大手の Google は、ハーバード大などと協力して、書籍検索サービス「Google Print」をスタートした。著作権が消滅した書籍を中心に、全ページをスキャンし、インターネット経由で、検索・閲覧可能にするものである。また、マイクロソフトや Yahoo などは、世界中の書籍や公文書をデジタル化し、複数の検索エンジンから検索可能にしようという「Open Content Alliance プロジェクト」に参加している。より身近なところでは、Amazon が、「なか身！検索」というサービスを開始した。和書と洋書の13万冊の本文を検索できるサービスで、数ページであるが「立ち読み」もできる。

また、ネットでのサービス以外にも、「電子書籍」といった閲覧用の携帯端末に書籍の内容を読み込み、データを入れ替えれば自由に好きな内容を読むことができる物も売られている。

一方、「電車男」などのように、元はインターネット上での掲示板の話題や、インターネット小説・ケータイ小説といったところから、映画や書籍となるヒット作が生まれている。

さて、もうお気づきだと思うが、このような、新サービスや新たな潮流が生まれてきている重要な背景としてあるのは、我々にとって必要な「情報」とは、「紙にインクで印刷されたモノ」ではなく、「そこに書かれている内容(=コンテンツ)」だということに尽きよう。

このような「あたりまえ」のことが、インターネットの出現により、具体的な形で次々に生まれてきているのが今の時代である。私も普段、インターネット上のフリー百科事典「Wikipedia」で調べ、電子図書館「青空文庫」で本を読み、「ブログ」で駄文を書き散らかす、ということを生活の一部としておこなうようになっている（10年前ではとても考えられなかったことだが）。

それでは、将来、「図書館」はどうなっていくのか？という疑問が今回のタイトルである。おそらく、今まで「本」といわれてきたモノは、徐々に減っていくだろう（だが決してなくならないと思う）。DVD やネット端末が増え、電子書籍端末なども使われだすのではないだろうか。すでに、国会図書館

では、書籍の蓄積のみならず、「Web ページ」も文化遺産としてアーカイブしている。このようにこれから「紙の本」は減るかもしれない。そして、そのような場所を「図書館」と呼ばなくなって、別の名称を使うようになるのかもしれない。

ただ、その「図書館といわれていた場所」には、今以上に、情報や人の集まる姿が思い浮かぶ。「紙」から「DVD」や「ネットワーク」へ情報を運ぶための媒体が変わろうが、建物の名称が変わろうが、図書館がもっている、情報を蓄積し提供するという機能にはなんら変化はおこらない。減少するどころか、より容易に誰もが必要な情報へアクセスできる環境が整うことで、これまでも増して「図書館」の重要性は高まっていくことが想像できよう。したがって、「図書館は無くならない」のである。

現在、多くの図書館において、莫大な書籍が書棚に並ぶことなく倉庫に眠ったままであるという。置き場所が無いのである。マクドノウは、「情報とは特定の状況で価値が評価されたデータ」であり、「データとは評価されていないメッセージ」と定義している。アクセスする手段を断たれ孤立化した「データ」を、再度、我々が利用できる「情報」へ戻すためにも、本の電子化は大きな成果をもたらすのかもしれない。

私が言いたいことは以上である。あと少し字数に余裕があるので、後は、勝手な想像を書いてみたい。数年後の図書館はどうなっているだろうか？自宅のパソコンから図書館へアクセスする。読みたい本を検索する。本の情報をインターネットで自宅パソコンへダウンロードして読む。電子情報であるから「貸し出し中」はない。いつでもどこからでも借りることができる。期間がくれば読めなくなり「返却」もされる。素晴らしい。ここまで書いてネットで検索してみると、こんなことはすでに実現されているらしい。自分の知識の無さを痛感した。本でも読もう。



本号の「自著を語る」のコーナーで、紹介された本の所蔵案内

『南島へ南島から 島尾敏雄研究』 高阪 薫・西尾 宣明編著
請求記号 910.268//2076 図書館（開架）所蔵

『日本のお金持ち研究』 橘木 俊詔・森 剛志 著
請求記号 361.83//2003 図書館（開架）所蔵

『不作為犯と正犯原理』 平山 幹子 著
請求記号 326.15//2017 図書館（開架）所蔵